

心が育ち 人を紡ぐ

いつまでも住み続けたい

“ちょうどいい田舎”をめざして



2023年度から2032年度までのまちづくりの羅針盤となる、新たな滝川市総合計画ができあがりました。滝川市では、これまで4期にわたり、まちづくりの方向性を定める計画を策定し、総合的・計画的にまちづくりを進めてきました。前回の総合計画では、世界に誇れる国際田園都市として、都市と農村が調和する田園都市の創造、グローバル化する社会における多文化共生のまちづくりを進めてきました。

新型コロナウイルスの発生やウクライナ情勢、エネルギー問題など、世界規模での問題、日本国内においても、人口減少や少子高齢化の進行、物価高騰や社会保障制度、国の財政健全化など様々な課題が山積し、市民生活にも深く影響を及ぼしています。

また、デジタル化の急速な発展や新技術の導入、Society5.0社会の実現など、目まぐるしく変化し、国際競争が厳しさを増す現代社会においては、国際感覚の醸成やスピード感をもって対応していくことが必要です。

さらには、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や脱炭素社会の実現に向けて、国際社会の一員としての責任を果たしていくことが求められています。

本計画では、「心が育ち 人を紡ぐ いつまでも住み続けたい “ちょうどいい田舎”」を将来像に掲げています。

滝川市は、地方都市として必要な機能やサービスが充実し、北海道内の各都市を結ぶ交通拠点としての利便性があり、かつ、災害が少なく、四季を感じられる自然豊かな優れた農村景観を兼ね備える、ほどよい住みやすさを感じられるまちです。

これまで、市民の皆さまと行政が手を取り合い、築き上げてきたこの郷土滝川には、まだまだ可能性を秘めていると感じています。これからも滝川への愛着と誇りを胸に、本計画を着実に実行し、さらにまちの魅力を磨き上げることで、子どもたちの笑顔があふれ、誰もがいきいきと暮らし、「このまちに住み続けたい、住んでみたい」と思えるまちづくりを目指してまいります。

結びになりますが、本計画の策定にあたり、滝川市総合計画策定市民会議、滝川市総合計画調査等特別委員会の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提言をいただきました多くの市民の皆様に心から感謝申し上げます。

令和5年3月

滝川市長 前田 康吉